

種を播いたら、芽が出るまでは絶対に乾かさないように注意します。ニンジンやダイコン、タマネギのような暑い時期に播かなければいけない種の場合は特にこまめに水やりをしましょう。

また、植物活力剤や特殊肥料の力を借りるのも手です。家庭菜園では「リキダス」「菌の黒汁」「ソイルサプリエキス」がおすすめです。発根を促し、丈夫にすることで暑さを乗り切ろうというわけです。基本的に水で薄めて水やりのように株もとに撒きます。「リキダス」は微量要素入りの植物活力剤です。植え付け時は1000倍、生育期には100倍で使います。200倍にして葉面散布もできます。「菌の黒汁」は液体の堆肥で、土中の微生物を増やすのが得意です。土づくりの時から栽培時まで500倍〜1000倍にして散布します。「ソイルサプリエキス」は大麦の発酵粕から作った有機質由来の特殊肥料です。生育中に200倍以上に薄めて使用します。葉面散布には500倍以上にして使います。いずれもグリーンファーム店でお買い求めください。

なお、気温が下がり日差しが落ちてきてきたら、日除けは外してお日様によく当てます。害虫が心配なら白い防虫ネットに掛け替えましょう。

べと病です。淡黄色の不規則な形の病斑が現れ、裏側に汚れた白っぽいカビが生えます。そのうち多くの葉に病斑が出てしまい、商品価値が著しく下がります。低温で雨が多い時に出やすい病気です。暑い秋でしたが、10月になって急に温度が下がったため発生しやすかったのかもかもしれません。

対策としては、風通しを良くしておくこと、雨の予報が出たら降る前までに「Zボルドー」など登録のある殺菌剤を

## A 回答



野沢菜の葉に黄色い斑点がたくさん出ている(10月)



わからないこと、不安なことなどありましたら、気軽にグリーンファームの営農相談員にご相談ください



散布して予防すること、などがあります。発症してからは治療効果のある殺菌剤を使用します。詳しくはグリーンファーム店や営農相談員にご相談ください。

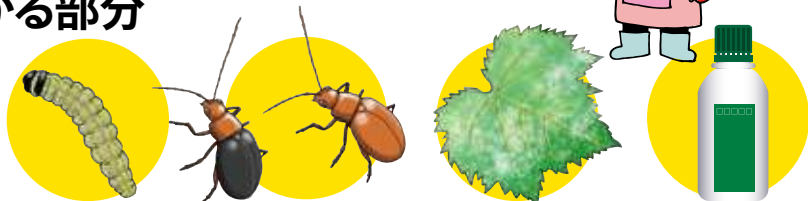
ちなみに、べと病は土の病気だと思われがちですが、土のことを「べと」と呼ぶのは上田地域の方言です。土は直接の関係はありません。

## ●農業相談にお越しの際は、ぜひお持ちください。

- 病斑や虫食い痕などがわかる部分
- 害虫と疑わしい虫
- 枯らしたい草
- ご自宅にある農薬のリスト

※難しいようなら写真でも構いませんが、確認したい部分が写っていないことがよくあります。

●おススメの薬剤はグリーンファーム店でお問い合わせください。栽培規模や条件に合わせた薬剤をアドバイスします。



気軽に家庭菜園



## 「よくある質問」

グリーンファーム中央店には営農相談員がおり、家庭菜園や直売所出荷の方の栽培や防除、施肥、土づくりなど、あらゆる農業の相談に対応できるようにしています。毎日たくさんの方が相談に訪れます。今回はその中から今年よく相談された質問とその回答を紹介します。

今年は6月下旬から10月中旬まで平年より高い気温でした。8月3日には過去最高の39℃を記録。厳しい残暑も長く続きました。日差しが非常に強いので、苗を植えてもすぐに葉が焼けて枯れてしまったり、種を播いて水をやってもすぐに乾いてしまったり、発芽しにくかったり、芽は出ても強い日差しに焼かれたり、非常に栽培しにくい状態でした。9月中旬になっても30℃を超える日がありました。が、キャベツやハクサイ、ブロッコリーなど葉野菜の苗は、上田地域では標高の低いところであっても9月上旬までに植えないと、結球しない、あるいは花芽が付かないなどの可能性が高くなります。つまり、涼しくなるのを待ってから植えると、収穫ができないまま冬になってしまうかもしれないということです。

対策は「日除けをする」「地温を下げる」「乾燥させない」です。

日除け対策には黒い寒紗や黒い防虫ネットをトンネルにして使います。白より遮光率が高い黒が良いです。日差しを遮れば地温も上がりにくくなります。一層地温を下げるには、マルチも白色にします。黒マルチを使う場合は、黒色が

## A 回答



暑すぎて植えられない(6〜9月)



マルチは白、防虫ネットは黒がおすすめ!



見えなくなるまで厚くワラを敷きます。マルチを張る前には土が湿っていることが大事です。じょうろで水を撒いたくらいでは表面が少し濡れる程度です。雨の後に張るのがベスト。地中までしっかり湿っていることを確認しましょう。